



UD ノンレール引戸ラクティス 施工説明書

- この度は、当社製品をご採用いただき誠にありがとうございます。
商品を正しく安全に組立・施工していただくために、この施工説明書をよくお読みの上、作業を行ってください。
- 本説明書に示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。
施工にあたっては必ずお守りください。
- 施工は専門業者が行ってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。
- この説明書は施工後必ず施主様へお渡しください。

施工時の注意事項 施工にあたっては次の点をご注意ください。

- モルタル用に海砂を使用されますと、多量に塩分が含まれているため、腐食の原因になりますのでご使用を避けていただくか、十分水洗いしたものをご使用ください。また、モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・珪酸ナトリウム等の入っていないものをご使用ください。
- アルミ商品と銅板やラス等の異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合には、ビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を使用する場合には、商品と接触しないようにするか接触する部分を完全に養生してください。
- 埋込柱内部にモルタルやコンクリートや水などが入らないようにしてください。柱内部の異常腐食や柱の凍結破損の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので、工事中に商品に付着しないようご注意ください。
- 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- 基礎施工は、地下埋設物（給水配管等）に影響を及ぼさないように柱設置位置を決めてください。
- 養生期間は十分（4日～1週間）にとり、養生期間中は重いものをのせたり、振動させたりしないように指示してください。
- ガス給湯器などの熱や排気ガスが製品に直接当たる、またはこもるような場所に設置しないでください。熱による塗装劣化・剥離（はくり）、また排気ガスによる腐食の原因になります。
- 改造・変更をしないでください。

この説明書に示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用者等が負傷する危険や物的損害の発生が予想されることを表しています。		「必ず行っていただくこと」を示しています。

注意

- 各ボルト・ビス類は、確実に締付けてください。
- 無理にボルト・ビスを締付けないでください。破損の原因となります。
- 施工完了後は、扉の開閉チェックを行い、不具合がないか確認してください。



- 引戸錠 HA 型の施工説明書 [ME-1746] を合わせて参照してください。
- 機能門柱納まりの場合は、機能門柱ファンクションユニットの施工説明書 [ME-1481] を合わせて参照してください。

※この説明書では、外観視「右引き」の場合を示しています。外観視「左引き」の場合は左右対称になります。
※施工手順は「内観図」で表しています。（「外観図」と指示のある場合を除きます。また、納まり図は「外観図」で表しています。）

もくじ

梱包明細	2	4. 扉の取付け	8
納まり図	3	4-1 取付け前の準備	8
1. 門柱部品の取付け	4	4-2 扉の取付け	9
1-1 戸当り門柱部品の取付け（※標準納まりの場合）	4	4-3 扉の調整	10
1-2 機能門柱の組立て（※機能門柱納まりの場合）	4	4-4 門柱キャップの取付け	11
2. 門柱の設置	5	施工後の確認	12
2-1 標準納まりの場合	5	施工工事店様、販売店様へのお願い	12
2-2 機能門柱納まりの場合	6		
2-3 門柱の埋め込み	6		
3. 扉部品の取付け	7		
3-1 戸当り・錠受けの取付け	7		
3-2 錠の取付け	7		
3-3 落とし棒の取付け	7		
3-4 落とし受けツボの埋め込み	7		

梱包明細

- 施工前に、部材数量および部品数量を確認してください。また、品質に支障のある損傷が無いか確認してください。
- 説明書に記載している部材・部品（ビス含）以外は使用しないでください。

表内の（ ）は個数を表しています。

梱包名称	梱包内容	備考
扉本体	A型（横格子）	扉本体（1） R・L有
	B型（縦格子）	扉本体（1） R・L有
	C型（横目隠しガラリ）	扉本体（1） R・L有
門柱セット	H1000	スライド門柱（1）・戸当り柱（1）・間隔出し部材（1） 門柱キャップセット（1）・柱カバーセット（1） 施工説明書 [ME-1756]（1）
	H1200	スライド門柱（1）・片引き納まり部材（1）・柱カバーセット（1） φ4×16セルフドリリングビス（7） 施工説明書 [ME-1756]（1）
	H1000（機能門柱用）	機能門柱納まりの場合
	H1200（機能門柱用）	機能門柱納まりの場合
引戸用 戸当り	H1000	戸当り（1）・戸当り固定裏板（4）・M4×8トラス小ネジ（4） 標準納まりの場合
	H1200	戸当り（1）・戸当り固定裏板（6）・M4×8トラス小ネジ（6） 標準納まりの場合
引戸錠	片引き 引き違い	錠本体セット（1）・作動ハンドル（1）・キー（3）・施工説明書 [ME-1746]（1）
機能門柱 ファンクションユニット	M1型・A1型	本体（1）・施工説明書 [ME-1481]（1） 機能門柱納まりの場合

別売品

表内の（ ）は個数を表しています。

梱包名称	梱包内容	備考
落とし棒セット	H1000	落とし錠本体（1）・φ4×12トラスタッピン3種（4）・落とし錠ガイド（1）
	H1200	落とし受ツボ（1）・施工説明書 [ME-1156]

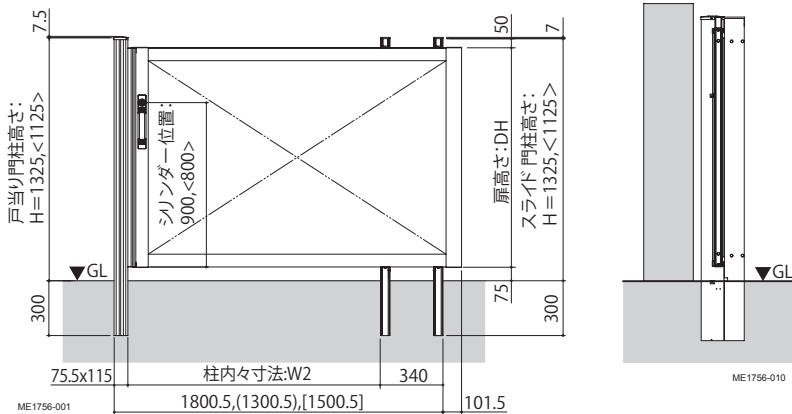
納まり図

- 施工前に必ず確認してください。
- 扉にはR・Lがあります。外観視右収納が「右引き(R)」となり、左収納が「左引き(L)」となります。
- この納まり図は「右引き」の場合を示しています。

標準納まり

※本図は、DW=1800、DH=1200の外観図です。
 ※()内はDW=1300、[]内はDW=1500を示しています。
 ※< >内はDH=1000を示しています。

外観図

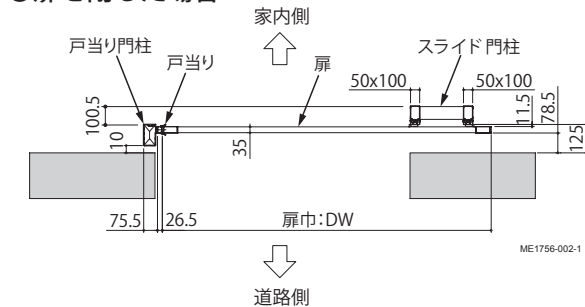


●納まり寸法表

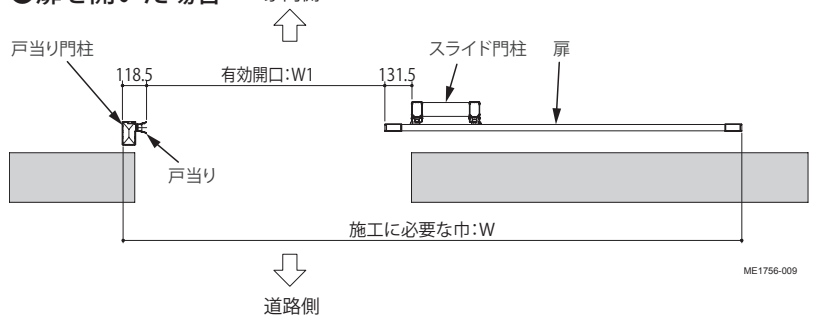
(mm)

サイズ 呼称	扉本体		W: 施工に 必要な巾	W1: 有効開口	W2: 柱内々寸法
	DW: 巾	DH: 高さ			
0710	1300	1000	2128.5	710	885
0910	1500		2528.5	910	1085
1210	1800		3128.5	1210	1385
0712	1300	1200	2128.5	710	885
0912	1500		2528.5	910	1085
1212	1800		3128.5	1210	1385

●扉を閉じた場合



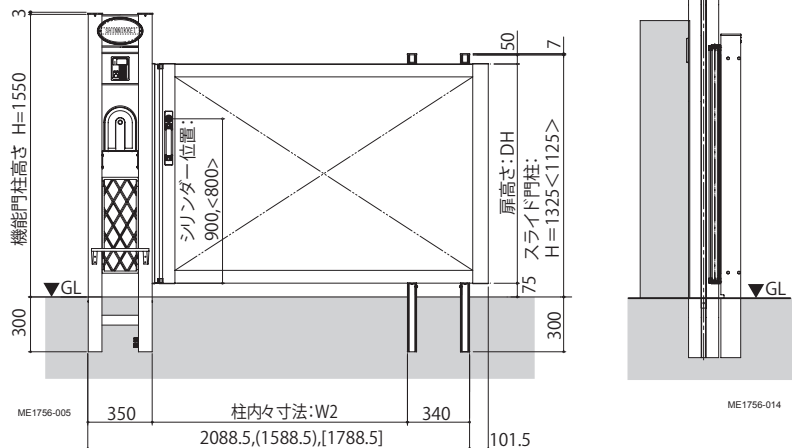
●扉を開いた場合



機能門柱納まり

※本図は、DW=1800、DH=1200の外観図です。
 ※()内はDW=1300、[]内はDW=1500を示しています。
 ※< >内はDH=1000を示しています。

外観図

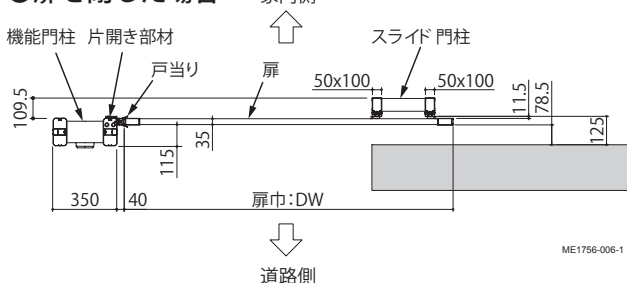


●納まり寸法表

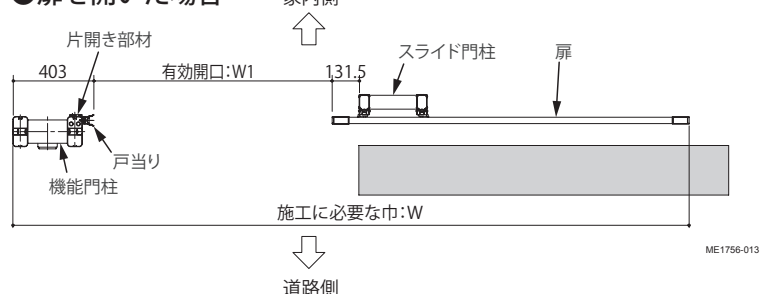
(mm)

サイズ 呼称	扉本体		W: 施工に 必要な巾	W1: 有効開口	W2: 柱内々寸法
	DW: 巾	DH: 高さ			
0710	1300	1000	2413	710	898.5
0910	1500		2813	910	1098.5
1210	1800		3413	1210	1398.5
0712	1300	1200	2413	710	898.5
0912	1500		2813	910	1098.5
1212	1800		3413	1210	1398.5

●扉を閉じた場合



●扉を開いた場合



1

門柱部品の取付け

1-1 戸当り門柱部品の取付け

(※標準納まりの場合)



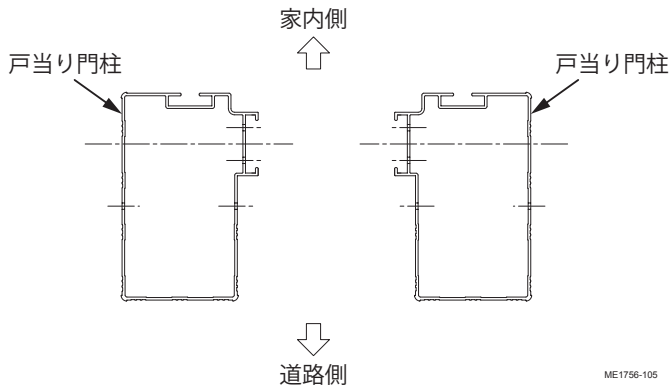
戸当り門柱には上下がありません。扉の勝手に合わせて上下を反転してください。

①戸当り門柱キャップを取付けてください。

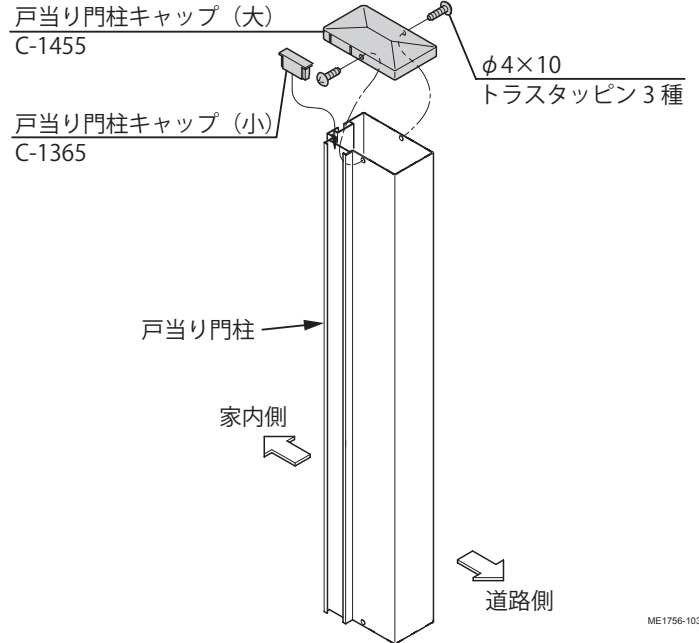
●柱の勝手

右引きの場合

左引きの場合



ME1756-105



ME1756-103

※本図は「左引き」の場合の外観図を示しています。

1-2 機能門柱の組立て

(※機能門柱納まりの場合)



参照説明書：
機能門柱ファンクションユニット
[ME-1481]

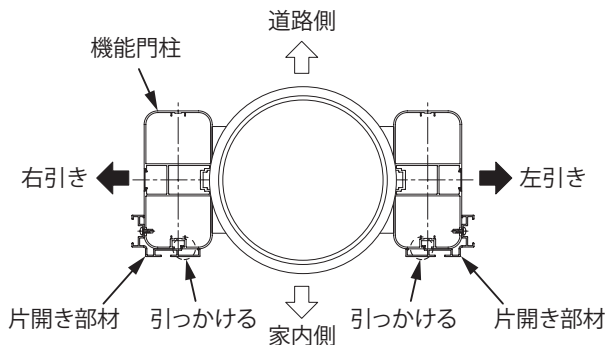
①機能門柱ファンクションユニットの施工説明書 [ME-1481] を参照して、機能門柱を組立ててください。

②片開き部材を機能門柱に取付けてください。

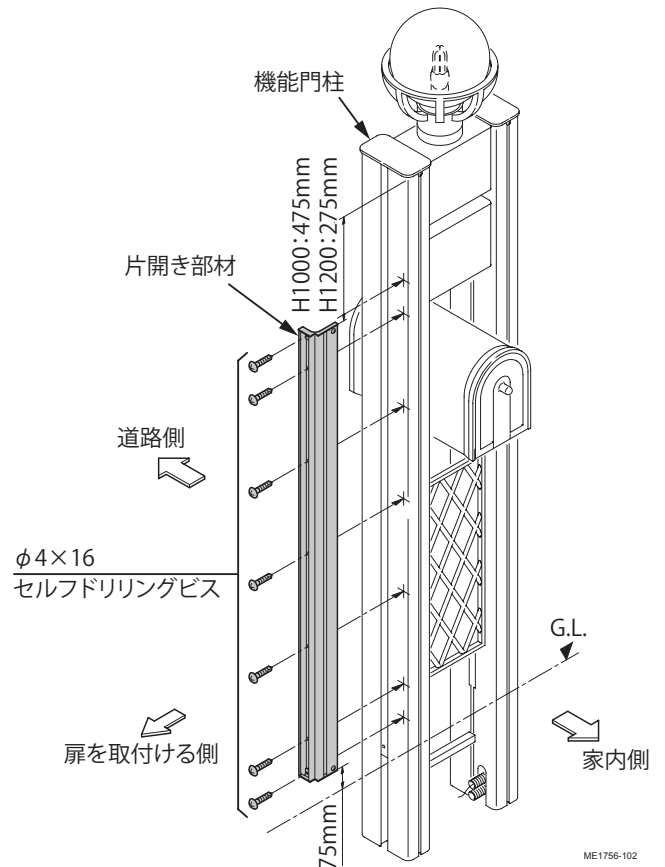
●取付詳細図

右引きの取付位置

左引きの取付位置



ME1756-104



ME1756-102

2

門柱の設置

●「納まり図」で巾および高さ寸法を確認してください。

●門柱を壁から 125mm 以上離し、壁に平行に設置してください。

※壁から 125mm 以上でないと、扉の設置ができなかったり、壁と作動ハンドルが干渉する恐れがあります。

※敷地により平行に設置することができない場合や、壁の凹凸が多い場合は、さらに 15mm 以上プラスして、140mm 以上離してください。

●門柱と壁との端部を合わせてください。壁端部より内側に設置しないでください。



2-1 標準納まりの場合

①「納まり図」および下図を参照し、門柱の設置位置を確認してください。

※前工程で門柱間隔（柱内々寸法）を位置出ししている場合は、その位置を保ってください。

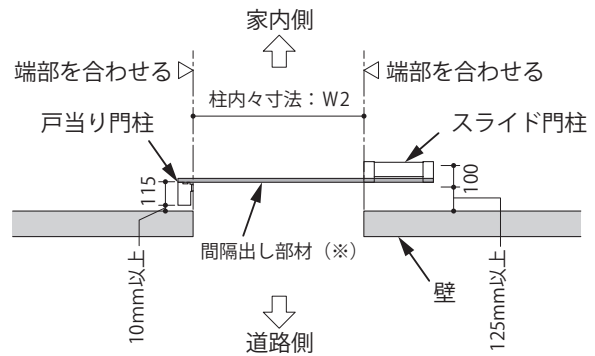


柱内々寸法の精度は、プラス 0mm、マイナス 10mm の範囲で行ってください。

●寸法表

(mm)

扉巾：DW	柱内々寸法：W2
1300	885
1500	1085
1800	1385



ME1756-201-1

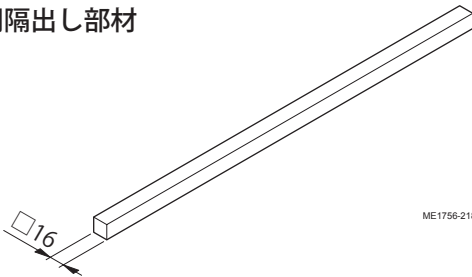
◆間隔出し部材の使用方法



●「標準納まり」の場合は間隔出し部材を使用して門柱の出幅間隔を位置出すことができます。

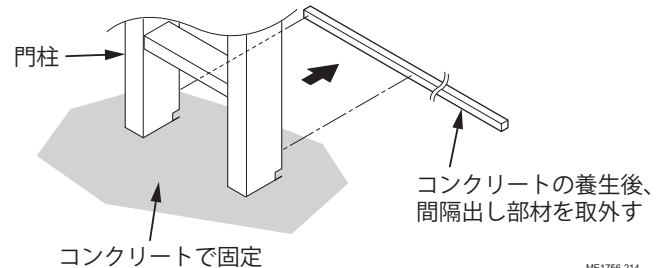
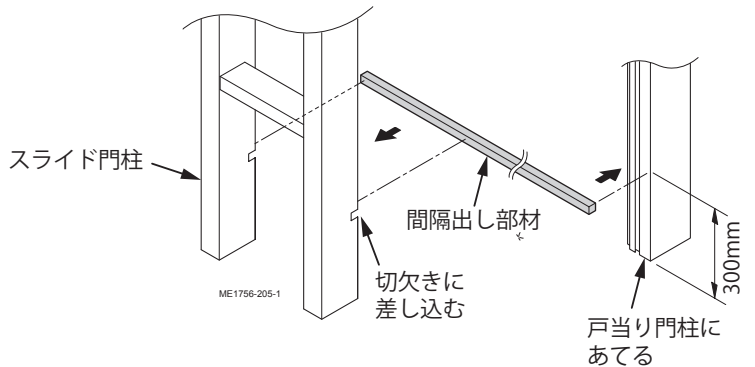
●間隔出し部材は、門柱の埋め込み後に取外します。

●間隔出し部材



※扉巾 DW:1800 の場合は、間隔出し部材がスライド門柱の片側にのみ納まります。

※扉 DH:1000 × DW:1800 の場合は、間隔出し部材が柱内々寸法より 36mm のみ長い納まりとなります。



ME1756-214

2-2 機能門柱納まりの場合

①「納まり図」および下図を参照し、門柱の設置位置を確認してください。

※前工程で門柱間隔（柱内々寸法）を位置出ししている場合は、その位置を保ってください。

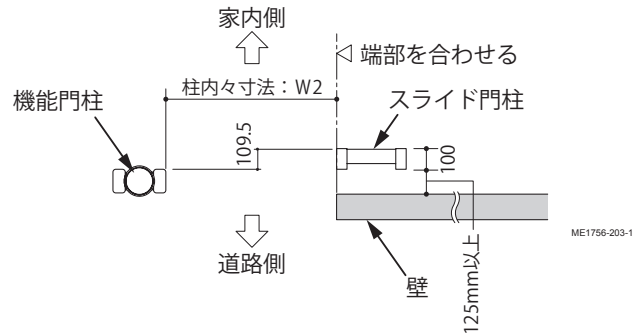


柱内々寸法の精度は、プラス0mm、マイナス10mmの範囲で行ってください。

●寸法表

(mm)

扉巾：DW	柱内々寸法：W2
1300	898
1500	1098
1800	1398



2-3 門柱の埋め込み

①「納まり図」で門柱の設置寸法・向きを確認してください。

②門柱をコンクリートで固定してください。



●垂直・水平レベルを正確に合わせてください。

●柱基礎には必ず割りぐり石を敷き、十分に突き固めてください。

※地盤が軟弱な場合は、基礎の深さ、フーチングの大きさを考慮してください。



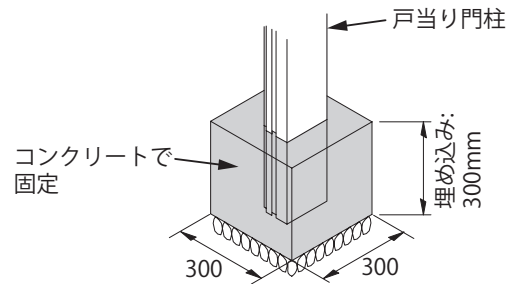
●埋め込み寸法：300mm



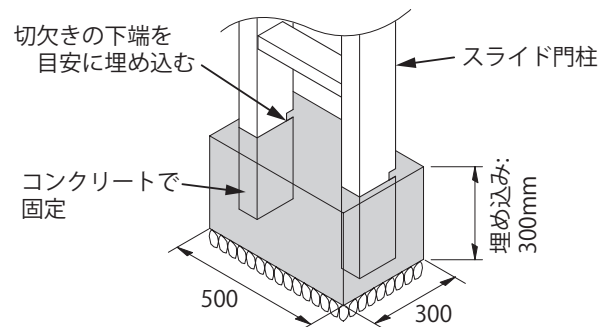
●機能門柱納まりの場合は、埋め込み前に、門柱部品の取付けが完了していることを確認してください。

●参照説明書：
機能門柱ファンクションユニット
[ME-1481]

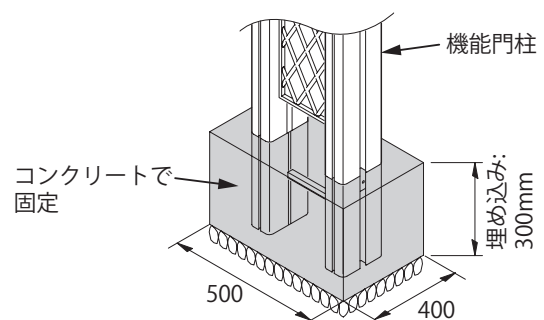
●戸当り門柱



●スライド門柱



●機能門柱



3

扉部品の取付け

3-1 戸当り・錠受けの取付け

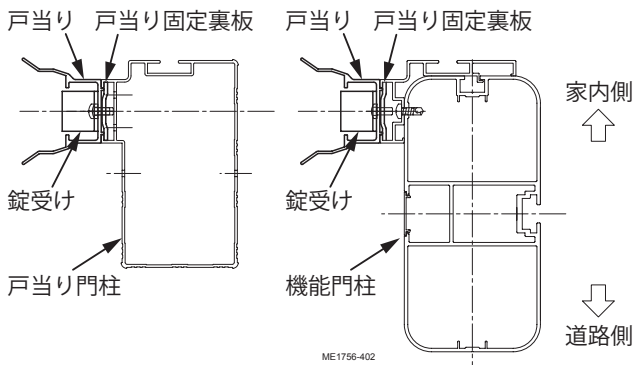


引戸錠 HA 型の施工説明書 [ME-1746] を合わせて参照してください。

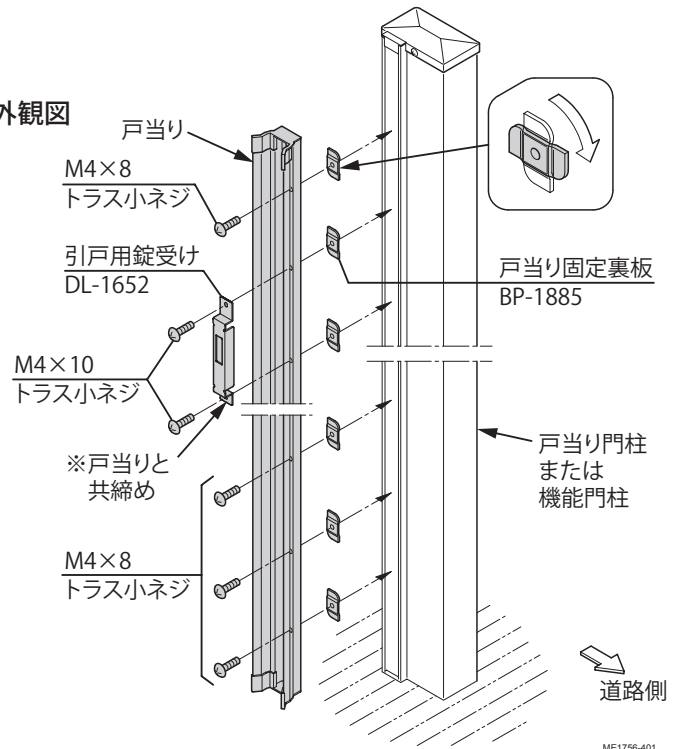
- ①戸当り固定裏板を使用して、戸当りと錠受けを門柱に共締めして取付けてください。

●戸当り門柱

●機能門柱



●外観図



※本図は戸当り門柱の場合を示しています。
 ※機能門柱の場合も同様の手順で行ってください。
 ※本図は「左引き」の場合を示しています。

3-2 錠の取付け

- ①引戸錠 HA 型と同梱の施工説明書 [ME-1746] を参照して、錠を取付けてください。



参照説明書

- ・引戸錠 HA 型 [ME-1746] の「片引き」の手順を参照

3-3 落とし棒の取付け

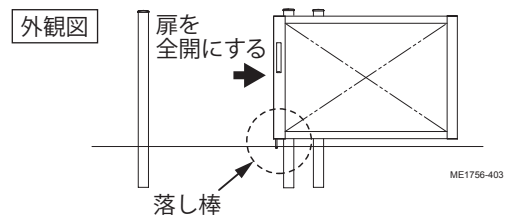


- 落とし棒（別売品）を取付ける場合は、あらかじめ現場手配しておいてください。

- 参照説明書
- ・門扉落とし棒 施工説明書 [ME-1156]

- ①落とし棒セット内の施工説明書 [ME-1156] を参照して、落とし錠を扉に取付けてください。

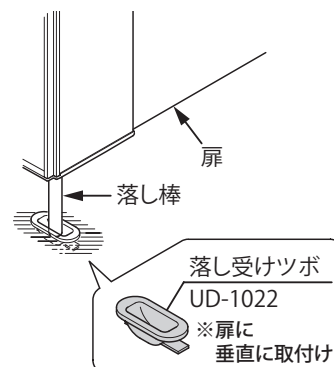
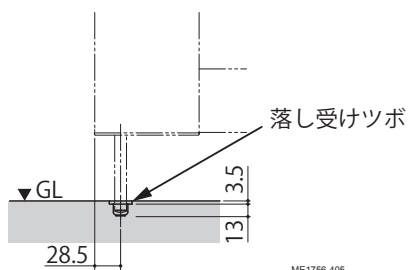
●取付位置図



3-4 落とし受けツボの埋め込み

- ①扉の落とし棒に合わせて、落とし受けツボを埋め込んでください。

●取付詳細図



4

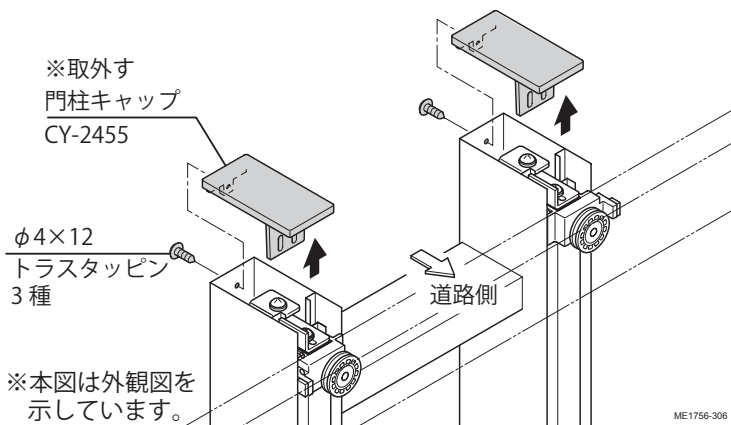
扉の取付け

4-1 取付け前の準備

①門柱キャップを取外してください。

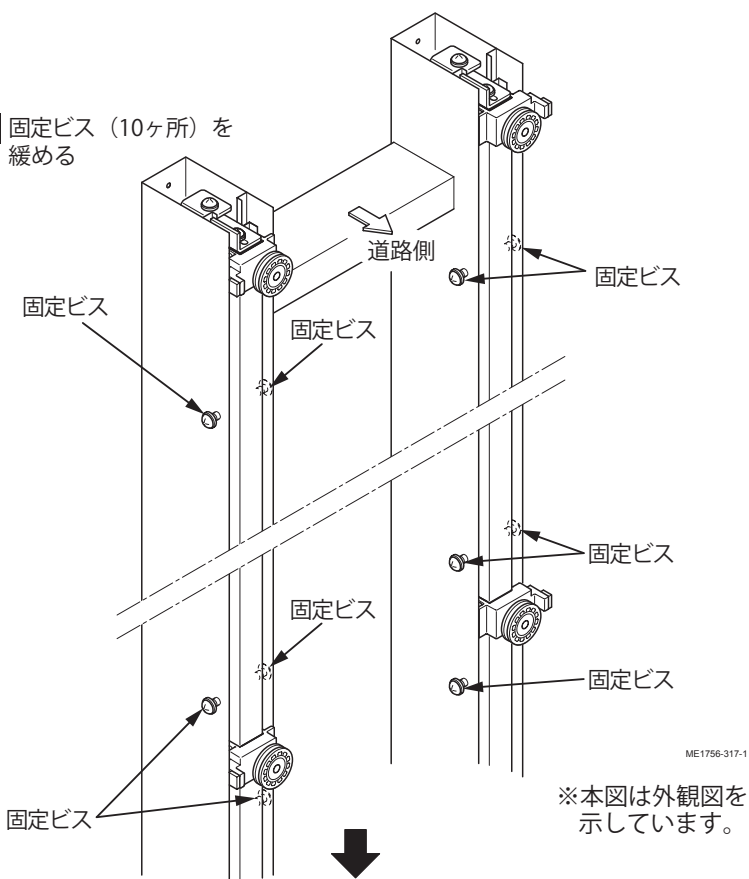


取外した門柱キャップおよびビスは、後で取付けますのでなくさないようにしてください。



②スライド門柱の固定ビス（10ヶ所）を緩めてください。

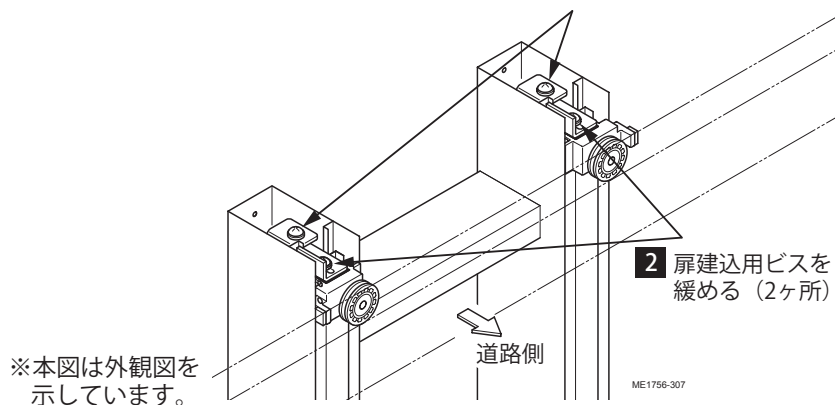
1 固定ビス（10ヶ所）を緩める



③扉建込用ビスを緩めてください。

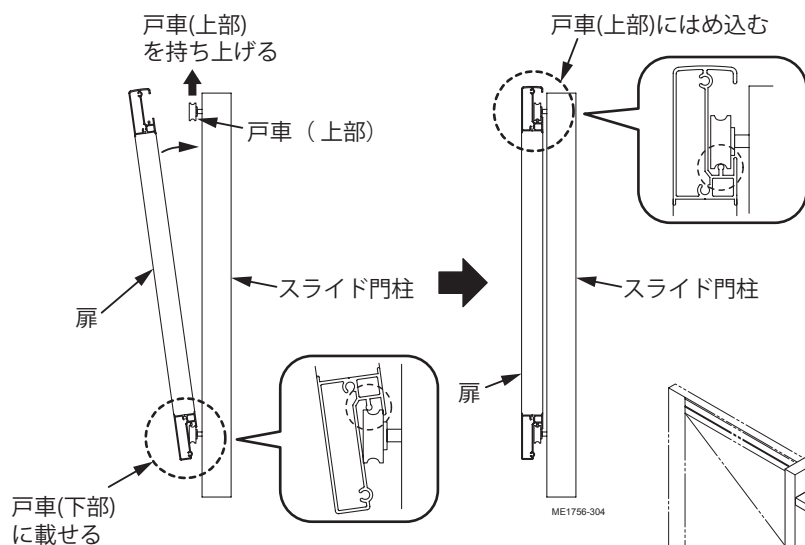
④調整用ビスを緩めてください。

3 調整用ビスを緩める（2ヶ所）



4-2 扉の取付け

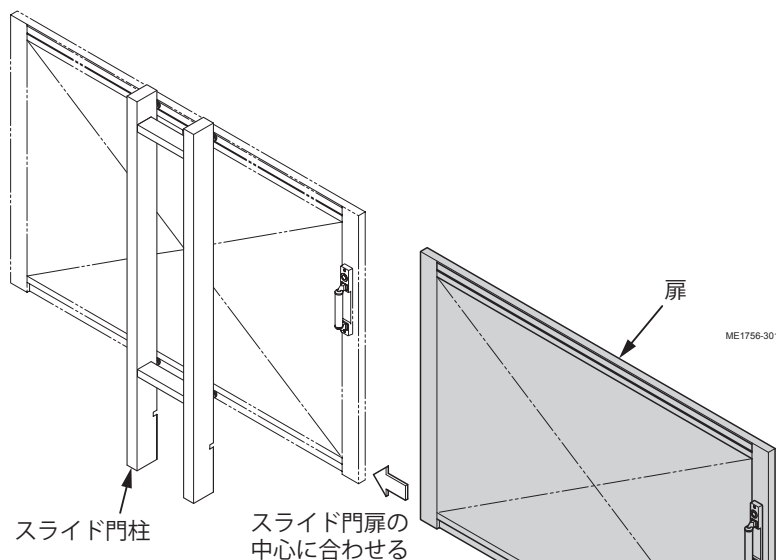
●取付詳細図



①スライド門柱の中心に扉を合わせてください。



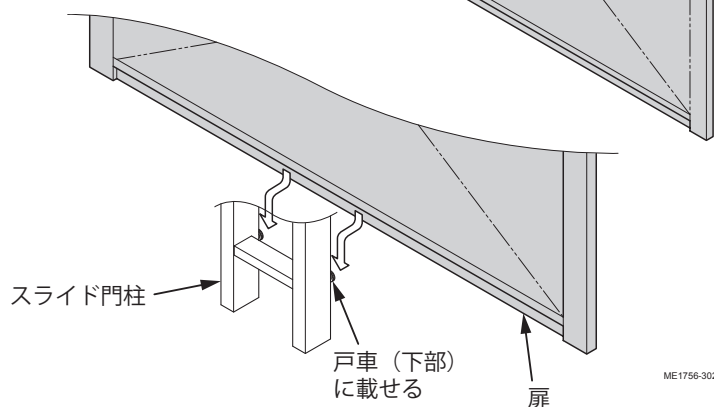
壁が既に施工されている場合は、壁とスライド門柱の間から、キズをつけないように扉を差し込んでください。



②扉を少し傾けて、下框レールをスライド門柱の戸車(下部)に載せてください。



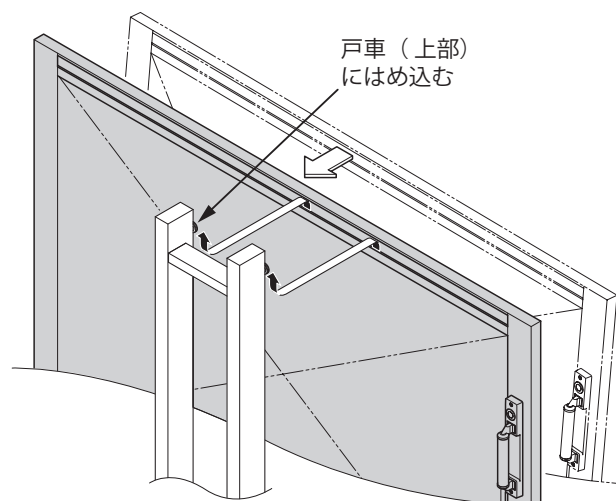
下框レールを戸車(下部)に確実にはめ込んでください。



③スライド門柱の戸車(上部)を手で持ち上げながら、上框レールをはめ込んでください。

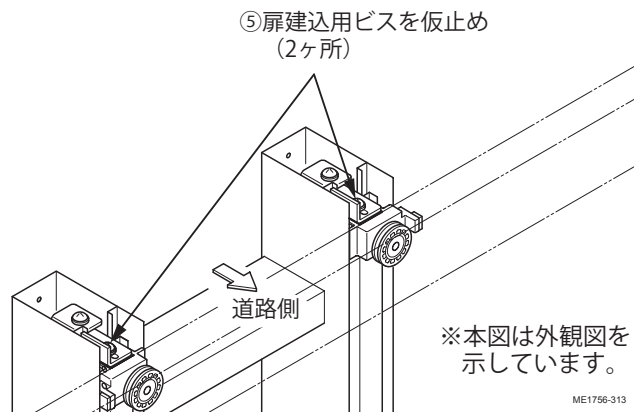
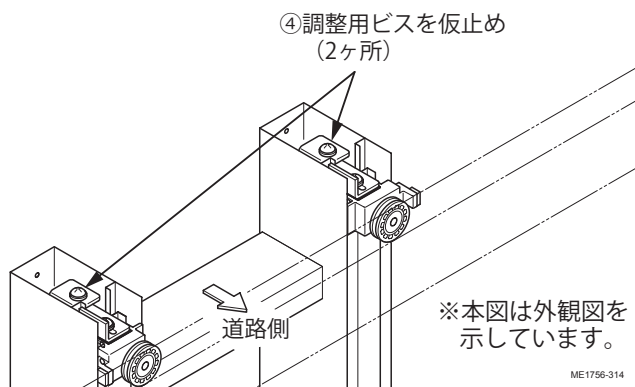


上框レールを戸車(上部)に確実にはめ込んでください。



扉の取付け

- 調整用ビスを仮止めしてください。
- 調整金具の長孔中心で、扉建込用ビスを仮止めしてください。



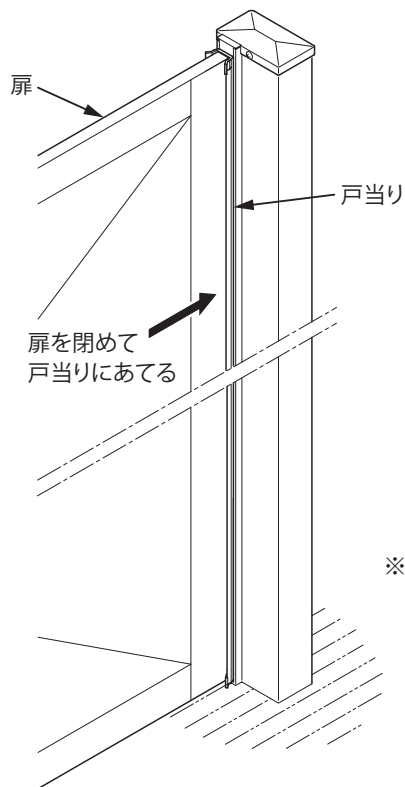
4-3 扉の調整

- 扉を閉めて、戸当りにあわせてください。



扉を戸当りに確実にあててください。

※扉を戸当りに合わせることによって戸車の位置が調整されます。

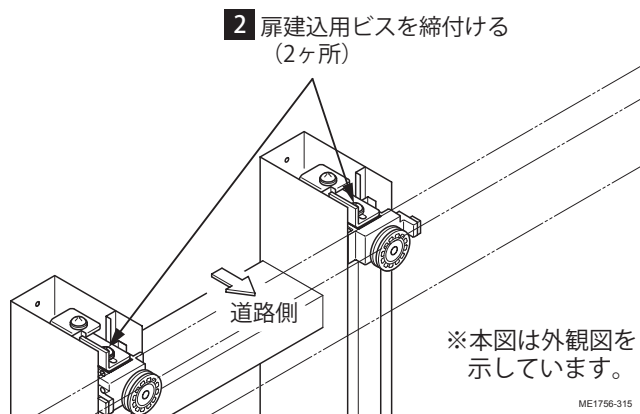
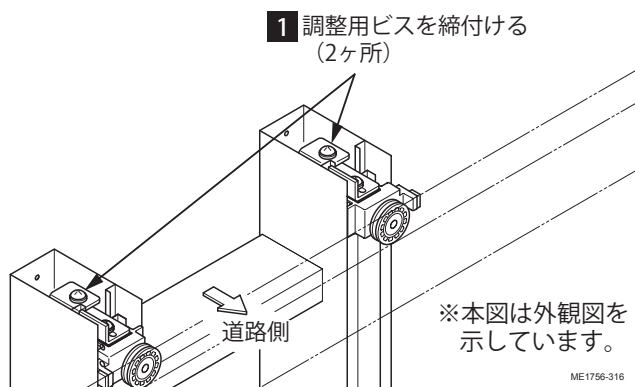


- 扉を戸当りにあわせた状態で、「調整用ビス」→「扉建込用ビス」の順に締付けてください。



ビスを、確実に締付けてください。

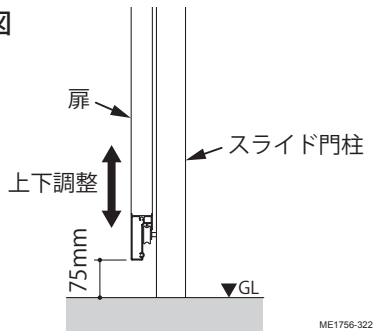
※締付けが十分でないと、扉の動作に支障がでる恐れがあります。



③扉の調整が必要な場合は、調整用ビスを回して上下を調整してください。

- 扉建込用ビスを緩めないでください。
- 扉が水平となるよう調整してください。
※敷地の傾きに合わせないでください。
- GL面から扉の下端までを75mmに調整してください。

●調整寸法図

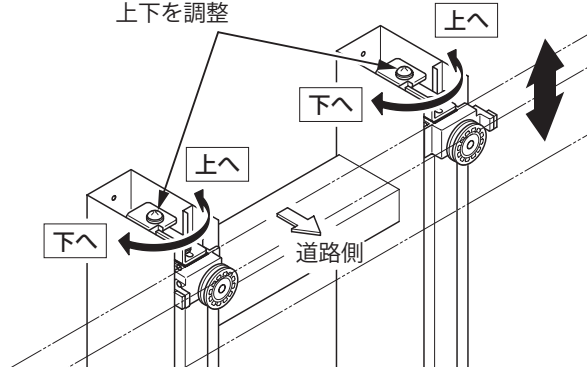


④上下の調整後、スライド門柱の固定ビス（10ヶ所）を締付けてください。

- ビスを、確実に締付けてください。
※締付けが十分でないと、扉の動作に支障がでる恐れがあります。

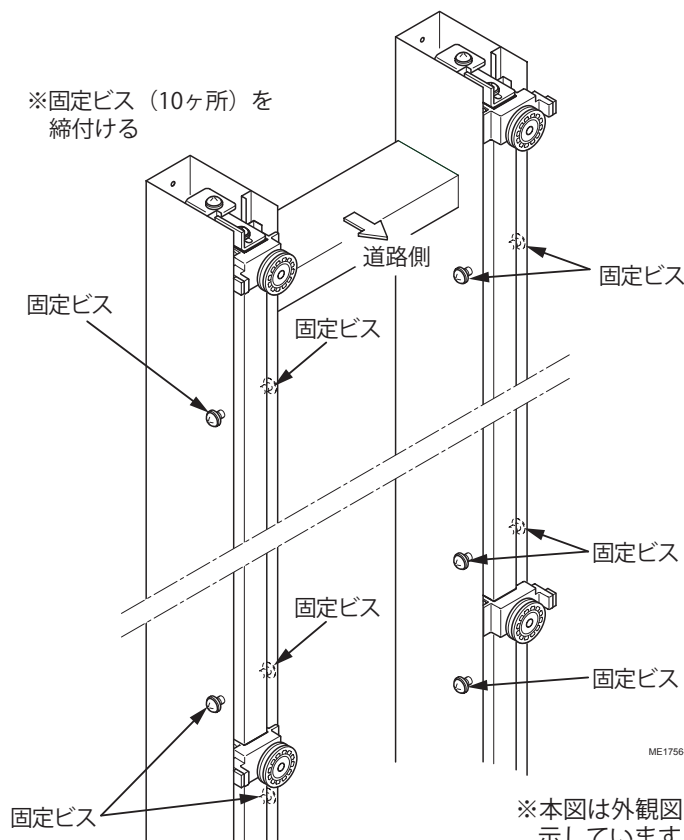
調整用ビスを回して、上下を調整

※本図は外観図を示しています。



ME1756-310

※固定ビス（10ヶ所）を締付ける



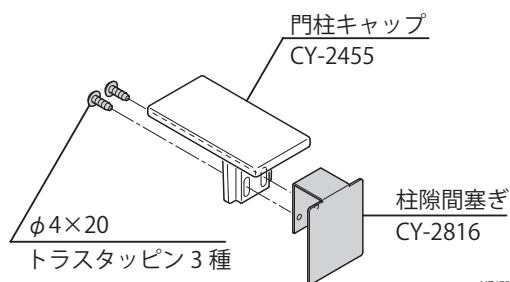
ME1756-320

※本図は外観図を示しています。

4-4 門柱キャップの取付け

門柱キャップは、スライド門柱の両側に取付けてください。

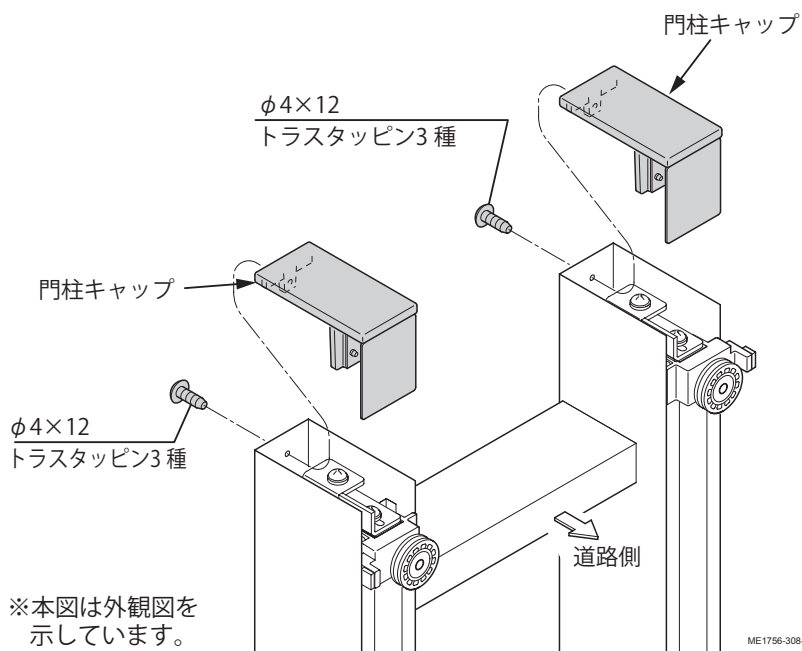
①門柱キャップに柱隙間塞ぎを取付けてください。



ME1756-549-1

②「手順①」で柱隙間塞ぎを取付けた門柱キャップをスライド門柱に取付けてください。

φ4×12
トラスタッピン3種



※本図は外観図を示しています。

ME1756-308-2

施工後の確認

- ビス・ボルト類が確実に締付けられているか確認してください。
- 可動部品については作動チェックを行い、不具合がないか確認してください。また、必要に応じて調整してください。
- 使用上危険な箇所等がないか点検してください。

扉の調整方法

●扉の出幅調整（10 ページ）

- ・扉を閉じて戸当りにあててください。
 - ➡戸当りに正確に合わない場合は、10 ページの「4-3. 扉の調整」の①、②を参照して、扉の出幅を調整してください。

●扉の上下調整（11 ページ）

- ・扉を開閉して扉の傾き具合を確認してください。
 - ➡扉は、扉本体の重量で少し傾くことがあります。傾きが極端な場合は、11 ページの「4-3. 扉の調整」の③、④を参照して扉の上下調整を行ってください。

■施工工事店様、販売店様へのお願い

- 「取扱説明書」に基づき（同梱されているもののみ）商品の使用方法、保守点検方法およびメンテナンス方法を必ず施主様に説明してください。
- この施工説明書は、施工完了後施主様にお渡しください。

施工完了日	年	月	日
施工工事店		TEL ()	-
販売店		TEL ()	-

株式会社LIXIL この商品についてのご質問やご相談は右記の窓口にお問い合わせください。 お客様相談室  0120-126-001

LIXIL インターネットホームページ <http://www.lixil.co.jp>